



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

テレワークの推進と地域課題の解決にむけたICTの利活用

森本 登志男 (もりもと としお)

キャリアシフト株式会社 代表取締役



○ 登録者情報

所在地

東京都

略歴

岡山県出身。京都大学工学部卒業。宇部興産、ジャストシステムを経て、マイクロソフト入社。マイクロソフトでは、Office の Product Manager、米国勤務、事業計画室長、市場開発室長、公共営業本部自治体営業部シニアマネージャー等を歴任。2011年より5年間に及ぶ佐賀県最高情報統括監(CIO)を経て、現在は総務省地域情報化アドバイザー、総務省テレワークマネージャー、内閣府公共サービスイノベーションプラットフォーム外部有識者、岡山県特命参与(情報発信担当)、キャリアシフト株式会社代表取締役、甲南大学非常勤講師等、官民にわたって活動している。

○ テレワークの推進と地域課題の解決にむけたICTの利活用

取組の内容

2011年に民間からの公募により佐賀県最高情報統括監(CIO)に就任。佐賀県の情報政策を統括するなど、県庁経営に参画し、2016年までの5年間に、基幹情報システムの開発・運用コストの大幅削減や佐賀県庁職員約4000人を対象にテレワーク全庁導入など、全国に先駆けた功績を残した。

県庁内部の改革にとどまらず、地方におけるデジタル時代の観光要素の演出やPR手法を先導するなど、ICTを活用した地域の課題解決にも手腕を発揮。「鹿島酒蔵ツーリズムORJ」の起ち上げを主導し、地酒を味わう「酒蔵ツーリズム®」という、新たな観光要素を全国に先駆けて創り出し、「酒どころ鹿島」のブランド創生にも貢献。

国民的人気アイドルグループAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」に合わせて、堅苦しいイメージのある県庁職員が踊る動画をYouTubeに投稿し、わずか50万円という低予算ながら240万再生を記録し、佐賀県のイメージ向上に貢献。その後、佐賀県庁に多い多くの地域や企業が競って同曲の動画をYouTubeに投稿する“恋チンブーム”を創出した。その後、自治体がポップで堅苦しくないPR動画を作成するムーブメントの先駆けとなった。

2014年の佐賀県庁の全職員4000人を対象としたテレワークの導入に成功した後は、テレワーク・働き方改革のコンサルティング、講演を数多く行っている。

2007年より総務省地域情報化アドバイザー。2014年より総務省ICT地域マネージャー。2014年、都道府県CIOフォーラム会長。2014年、九州総合通信局長賞受賞。2015年、内閣府『公共サービスイノベーション・プラットフォーム』外部有識者。2016年より、内閣府クールジャパン・地域プロデューサー、総務省テレワークマネージャー。(いずれも現在継続中)

現在は企業や自治体向けのコンサルティングを行うほか、総務省地域情報化アドバイザー、総務省テレワークマネージャー、岡山県特命参与等、公職を兼務。ICTとマーケティング手法を用いた地域活性化に携わる。G20観光大臣会合(2019年)では官民セッションにおけるモデレーターを務めた。

実績

・ マイクロソフト株式会社

1997年、同社におけるアジアのマーケティング担当者の最優秀者表彰(Asia Marketing Award 1997)

・ 徳島県上勝町

ICT戦略推進の実施の2008～09年における社会的人口増。21人(年平均 10.5人)(直前10年間の年平均が、-12.4人)

・ 佐賀県多久市

焦点の数が最盛期30軒から6軒まで減少し、廃墟と化していた商店街中多久マーケットにおいて

・ 商店街や地域の人を巻き込んだワークショップを実施

・ 2015/1から翌年2月まで、14カ月連続で予算をかけないイベントを実施し、のべ602名の集客

・ 賑わいを取り戻し、最盛期30軒から6軒まで減少した商店の数が、1年弱で50%増の9軒に

・ 佐賀県庁

・ 2014年、テレワークの前兆導入(佐賀県として第16回日本テレワーク協会会長賞受賞)

・ 佐賀県庁システムコスト約44億円削減

・ 佐賀県鹿島市「鹿島酒蔵ツーリズム」

・ 地域の酒蔵を練り歩いて、酒造りの文化を楽しむ「酒蔵ツーリズム」の立ち上げを主導

・ 鹿嶋市により「酒蔵ツーリズム」の登録商標を取得、「酒どころ鹿島」のブランド化

・ 来場者数は初回3万人(2012年)から10万人(2019年)に成長

・ 令和元年度ふるさとづくり大賞・最優秀賞(内閣総理大臣賞・総務大臣表彰)

・ 総務省地域情報化アドバイザー

2007年度から2019年度までに、100回以上の派遣実績

情報政策・情報発信・働き方改革・ブランディングなどの分野で、戦略策定や効果的な実践に向けての助言、事業推進を行う

・ 総務省テレワークマネージャー事業

2018年度、全マネージャー中で最多の派遣回数記録

2019年度、2自治体、8企業に向けて、前年よりさらに多い計30回の派遣

現状の業務の分析およびテレワークの導入の支援を通して、業務の効率化や課題の解決まで浮かび上がらせる。

・ 講演

全国各地の自治体や企業等向けに、地域創生・街なか活性化・働き方改革などのテーマで講演を行い、各地域の課題解決にあたる。年間の講演回数は50に迫る。

・ 著書

「あなたのいるところが仕事場になる」(大和書房)

工夫した点や苦労した点

地方の特色として、外部から来た人間を受け入れたがらない傾向があり、従来から続いてきた手法を変えることに対する抵抗感は強いものがあります。

まず、地元の方々の警戒感を解き、その地域が抱えている課題とその原因をさぐり、次の発展のもととなる地域資源の発掘につなげる必要があります。地域の方に、なぜその地域に入ってきていて、何をしようとしているかを理解いただくために、懐に飛び込んで本音を聞き出せる関係を築くことに重点を置いています。

テレワークの推進においては、テレワークの実践をゴールに置くものの、業務内容を細かく分析することから入っていく。その過程で、内部の人たちだけでは気づかない業務改革の種が見つかる。時間と手間はかかるが、現在行われている業務を丁寧に棚卸していくようにしています。

ひとことPR

東京での民間企業勤務と、地方での自治体職員としての勤務経験から、「東京と地方」・「民間企業と行政」という、それぞれ大きなギャップのある立場を熟知し、実効性のある地域課題の解決に取り組んでいます。これまで携わってきた事例を紐解きながら、それぞれの地域の持つ力を発揮するお手伝いをしております。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	○	7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化	○	8	若者自立支援
○	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
○	4	企業立地促進		10	環境保全
○	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

キャリアシフト株式会社	https://www.careershift.jp